

全国学力・学習状況調査について

平成20年10月
島本町教育委員会

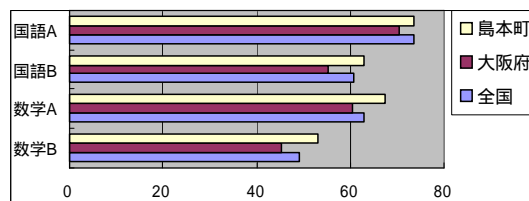
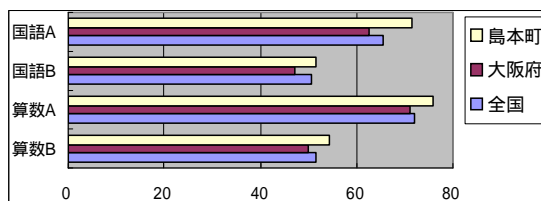
昨年度に引き続き、本年4月22日に全国の小学6年生、中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の集計結果が、8月29日の新聞報道にて発表されました。

また同日、本町の結果につきましても、送付がありましたので、その概要について、お知らせします。

本町の結果の概要について
平均正答率一覧

小学校	国語A	国語B	算数A	算数B
島本町	71.4	51.4	75.9	54.4
大阪府	62.7	47.0	71.2	49.9
全国	65.4	50.5	72.2	51.6

中学校	国語A	国語B	数学A	数学B
島本町	73.7	62.9	67.5	52.9
大阪府	70.5	55.2	60.5	45.2
全国	73.6	60.8	63.1	49.2



今回の調査も、小学校・中学校とも、国語・算数(数学)の2教科。それぞれ「知識」に関する問題(「A調査」と「活用」に関する問題(「B調査」)で実施されました。

平均正答率の結果は上記のとおりですが、全体として、本町は全て全国を上回る結果でした。

「A調査」(知識に関する問題)の本町の平均正答率を全国平均と比較すると、小学校では、国語で全国平均を大きく上回り、算数についても全国を上回りました。また、中学校では、国語はほぼ全国平均並みでしたが、数学では全国平均を上回る結果でした。

「B調査」(活用に関する問題)についても、小学校では、国語・算数とも全国を上回り、中学校でも、国語・数学とも平均正答率が全国を上回る結果がでました。

「学力向上」について

本町における今回の調査結果については、国語・算数(数学)とも基礎的な学習内容が定着していたことに加え、国語では作文問題で自分の考えを書いたり、数学では証明問題で説明をしたりする設問等において「無解答率」が低かったことが考えられます。

また、児童・生徒の学力向上のための要因としては、

- 1) 「家庭・地域における教育力や生活環境」という内面的な要因
- 2) 「学校における学習環境(基本的な生活習慣の成立、学習に前向きな学級集団)」

「学校の学力向上の取組(授業づくり、基礎基本の積み上げ、授業形態の工夫、学習の場の設定、家庭との連携)」に加え、校内組織と研修体制などの外面的な要因

- 3) 当日の児童・生徒の調査に取組む姿勢
等が考えられます。

今回の本町における結果は、これらの要因が絡み合って表れているものと思われます。

この結果については、昨年度の結果も参考にしながら、総合的な「学力向上」策を分析・検討し、改善策を実施することで、一人ひとりの児童・生徒の学力向上を図っていきます。

なお、この調査は、対象が限られた学年(小学校6年及び中学校3年)のみの実施であり、また、学力全体の中で、特定の一部を調べたものです。